

令和6年度第2回 高時川濁水問題検討会議 議事概要

日 時:令和7年3月10日(月)14時00分～16時15分

場 所:ながはま文化福祉プラザ 多目的ホール

出席委員:原田委員、大久保委員、吉村委員

宮崎委員、前川委員、片山委員、向田委員、阪田委員、寺田委員

会議の概要

1 開会

(事務局)

- ・高時川濁水問題検討会議第2回を開催する。
- ・高時川濁水対策連絡調整会議事務局の湖北森林整備事務所長よりあいさつ。

(あいさつ)

- ・前回11月の検討会議では、今年度の取り組みについての中間報告と、それについての評価検証、各委員から情報提供をいただいた。
- ・本日は、行政側から1月31日の高時川濁水問題に関する報告会で出された意見や、その後の取り組みの進捗と来年度の取り組みについて、各部局から説明させていただく。
- ・また、座長の原田委員と岐阜大学生との共同で実施された濁度調査の結果報告、大久保委員からは長期濁水の調査結果、阪田委員からはアユの影響調査をご報告いただく予定になっている。
- ・限られた時間ではあるが、それらを踏まえて、ご意見等を賜りたいのでよろしくお願いします。

2 各委員の紹介

- ・事務局から学識経験者および高時川に関する実情に詳しい者(地元関係者)、情報提供者を紹介。

3 議事

- ・座長による会議の進行。

4 議題1 1月31日に実施した「高時川濁水問題に関する報告会」について

(森林保全課)

- ・11月12日の高時川濁水問題検討会議(第1回)で国、県から説明させていただいた今年度の取組について、地元の方(約50名)にその内容を報告した。
- ・高時川と同様、令和4年8月豪雨で濁水が長期化している福井県日野川で、濁水問題に取り組んでおられる日野川活性化協議会の関係者から、濁水対策に関する情報提供をいただいた。

- ・報告会で参加者からいただいた意見について説明した。

5 議題2 濁水分析および漁場への影響について

(岐阜大学)

- ・高時川における濁水発生パターンと濁度上昇メカニズムの分析について報告。
- ・県報告書での濁水の長期化原因は、上流のむきだしになっている土砂が本川に流入して発生する「上流大雨パターン」と本川に堆積した細粒土砂が雨のたびに巻き上げられて発生する「中小出水パターン」の二つ。
- ・分析の結果、濁水長期化は上流大雨パターンと中小出水パターンの連続的な組み合わせで発生。
- ・流量と濁度の関係性から、2023年度より2024年度の方が濁度の値が小さく、濁水の状況が改善されてきている。
- ・出水するたびに河床表面の土砂が動いて、河床表面付近に残っていた細粒分が洗い流されている。

(大久保委員)

- ・高時川の長期濁水に関する調査経過の報告。
- ・高時川の長期濁水の原因は2022年8月豪雨時に上流の集水域から流出してきたと推定。
- ・流域は泥岩を主体とし、チャート砂岩等、同じような地質の区域となっている。
- ・懸濁物質の沈降速度分布の調査地点による比較では、細粒土砂の供給源は大音波谷川流域である可能性がある。ただし、1回の調査結果なので追加調査が必要である。
- ・今後発生する豪雨時に細粒土砂が流出しない浸食防止対策が、特に大音波谷川流域のスキー場跡地で重要。
- ・2022年8月に流出した大量の土砂が河床に堆積し移動していることから、そのモニタリングや管理をどうするのかといった検討が必要。

(阪田委員)

- ・高時川漁業協同組合における令和4年8月豪雨後のアユ漁場の影響について報告。
- ・令和4年8月豪雨後濁水が長期化し漁場環境が悪化した。多量の泥や砂利等の流入と堆積により、アユの育ちにくい川となってしまった。令和5年はアユ漁を休業した。
- ・アユが釣れるポイントが少なくなり、令和6年は例年より入漁者が少なかった。
- ・遊漁券の販売が安定していたのは、平成26～28年と令和3年のみ。
- ・遊漁券の売り上げは、川の状態が良く天候が安定していてよく釣れることが大事。
- ・濁水発生から2年半がたち濁りも収まってきたが河川環境はまだまだ良くない。

6 提案・意見・質疑等

○委員(地元関係者)

- ・浚渫して土砂をふるいにかけて、玉石だけをストックし、高時川の濁りが落ち着いたら、その石を戻してほしい。
- ・高時川と姉川の合流地点あたりでも濁度調査を実施してほしい。
- ・是正工事の沈砂池について、強度などを土木の専門家にも確認してほしい。

(回答:森林保全課)

- ・沈砂池については、事業者から提案がなされ安定計算等を確認し認めたもので、構造上は持つものと認識。

○委員(学識経験者)

- ・非常に細かい濁りの原因については改善する方向ではあるが、○委員(地元関係者)からの報告にあるように砂とか砂利はまだかなり残っている状況。
- ・沈砂池の件については、土木の専門家として確認させてもらう。

○委員(地元関係者)

- ・川の傾斜は下流にいくほど緩くなっているの、堆積している土砂はどれだけたってもその濁りはなくなるといふことか。
- ・スキー場からの土砂流出を止めることや、高時川において浚渫等で濁りの発生源である土砂の堆積を少なくしてアユの棲める川に戻してほしい。
- ・伊香高等学校に森林に特化した学科が作られたりしているので、もう少し若い方も含めて、この流域や山をどう守っていくか、住民参加型で参加して語れる場を作してほしい。

○委員(学識経験者)

- ・委員によって意見が違ふかもしれない。細かな堆積物は一雨ごとに川底が動き洗い流されるが、砂利とか砂などの粒径の大きなものは簡単には移動せず、より長く残ってしまう。
- ・漁場を良くしていくため、砂利とか砂に対して出来る範囲で知恵を絞るべき。

○委員(地元関係者)

- ・土地改良区で高時川の下流で頭首工の切り替え管理をしており、雪解け時には流量も増えて、ゴミもいっぱい流れてきて通水阻害が生じる。
- ・治水力が弱まっているのか、最近は雪解け後一気に水が増えて一気に減ってしまう状況。昔は少しずつ減っていたので有効に利用していた。

・水が足りないので、余呉湖や琵琶湖からのポンプアップなど経費がかかっている。

○委員(学識経験者)

・伊香高等学校で森の探求科の設立にもかかわっており、いただいた御意見はできるだけ反映するよう努めたい。

7 議題3 高時川濁水対策にかかる今年度および来年度の取組について

(湖北森林整備事務所)

- ・スキー場跡地の是正工事は予定どおり11月末で完了。
- ・高時川と合流する大音波谷川において、治山事業を実施すべく林野庁に来年度の予算を要望。
- ・施工場所は高時川合流点付近の県道の橋から少し上流のところにえん堤を設置する予定。

(水産課)

- ・南浜において、漁協による河床耕うんを8月に続き11月1日から25日まで実施。
- ・次年度についても状況把握に努め、必要な支援を継続。
- ・川や出水の状況も刻一刻と変わっていくので、より効果が発揮できるよう規模や場所について検討。

(長浜土木事務所木之本支所)

- ・県道のブロック積の下が抜けている箇所について、川の水で洗掘されないよう復旧工事を実施。
- ・復旧が必要な箇所33箇所のうち、現在19箇所が完成。
- ・残り14箇所は令和7年度のできるだけ早い時期に完成するよう進めている。
- ・土砂等の浚渫については現地の状況を見ながら必要なところで実施。

(琵琶湖河川事務所)

- ・針川堰堤の補修工事については左岸側の施工が完了し、右岸側は令和7年の秋から積雪までの間で施工予定。
- ・川の中の流木の除去や、堆積土砂の撤去を計画。

8 提案・意見・質疑等

○委員(学識経験者)

- ・南浜で河床耕うんを8月と11月に分けて実施されたのはなぜか。

(回答:水産課)

- ・8月はアユの産卵期直前として行い、やりきれなかった分を産卵後に引き続き実施した。

○委員(学識経験者)

- ・産卵から孵化するまでに2週間くらいかかるので、産卵場所を乱さないようにしたほうが良い。
- ・長良川でも川の水温が高く、アユの下る時期がこの数十年で1か月半くらい遅くなっている。
- ・水産多面的機能発揮対策事業は補助金だと思うが、どのように申請すれば適用されるのか。
- ・受け皿となる組織としての枠組みを先に作っておき、そこで何をするのかを要望するながれとなるのか。

(回答:水産課)

- ・令和7年度予算は全県ですでに計画が固まっている。
- ・令和8年度に向けて、どういう形で何をするのかを検討していく。
- ・先に組織を作り、そこで何をするのかという流れになる。

○委員(地元関係者)

- ・河床耕うんについて、高時川では全然されていないが、やろうという団体がいないのか。
- ・やらなければならないところは高時川にもたくさんあるのでは。

(回答:水産課)

- ・実施されていないのはおっしゃるとおり。

○委員(学識経験者)

- ・高時川の上流では砂利や砂が河床を覆ってしまっている。
- ・各漁協の守備範囲みたいなのところはあるが、上流で何か一緒に活動ができればよい。

○委員(学識経験者)

- ・下流の南浜あたりでは濁りがなかなか収まらないとのことだが、以前に琵琶湖河川事務所にて野寺橋で濁度のモニタリングをされていたが現在でも行っているのか。
- ・県にて南浜で濁度調査はされているのか。

(回答:琵琶湖河川事務所)

- ・今はやっていない。

(回答:森林保全課)

- ・自記濁度計を設置して計測しているのでデータをお示しできると思う。

○委員(学識経験者)

- ・洪水が川底に含まれる泥を洗い流すことで濁水はだんだん改善されていくと思う。
- ・○委員(地元関係者)からの話では漁場という観点では上流はアユが苔を食べる石が砂利や砂で埋まっており、○委員(地元関係者)からの話では下流にはまだまだ細かい土砂がいっぱい流れてきている。
- ・大量に出た細かな土砂が琵琶湖まで流れ込んで湖岸域にもいろいろな影響があるのではないかな。
- ・より広い方々に関心を持ってもらい、対立ではなく協調しながら高時川を良くしていくといった取組をすべき。

○委員(地元関係者)

- ・全部元通りというのは難しいかもしれないが、ピンポイントで少しずつ魚が棲める場所を復活させていくことで、時間がたてば魚も増えていくのではないかな。

○委員(学識経験者)

- ・出来る限り広範囲で戻す努力をすべき。
- ・山から供給された河川内の砂や砂利を取り除くことで元の状態に近くなる。
- ・河床内に大きな礫も加えることで、河床空間も多様になり、それによって生き物も戻ってくる。

○委員(学識経験者)

- ・何箇所かだけでも漁場の再生実験みたいなことを一緒にできないかを考えている。
- ・来年度はアユの放流はいつ頃されるのか。

○委員(地元関係者)

- ・5月末にしている。

○委員(学識経験者)

- ・何もしないで手をこまねいていても、なかなか砂利や砂は流れていかないので、具体的にやれることをやってみて、うまくいきそうであれば公の補助を受けて展開するなどのアクションを起こしてみてもどうか。

○委員(地元関係者)

- ・アユが一番産業として重要であるにもかかわらず、高時川では産卵できる場所がものすごく少ない。
- ・人間の都合で川が改変されてしまい、川としての機能が失われている部分が多い。
- ・これを機会に、高時川がアユを育むための重要な河川として復活させる取組ができてほしい。

○委員(学識経験者)

- ・生息場所としての高時川だけでなく、琵琶湖全体の問題の中で高時川(姉川)は琵琶湖から入ってくるアユの産卵場となっているので、そういう観点も持ちながら県として取り組まれた方が良い。

(回答:水産試験場)

- ・御指摘いただいたように、姉川は琵琶湖のアユ資源を支える非常に重要な川であり、例年は琵琶湖全体の半分ぐらいの産卵が行われてきた。
- ・ところが、2022年の濁水では泥が堆積し姉川での産卵がうまく行われなかった。
- ・また、昨年の秋には川の水温が高すぎて、アユが遡上しても卵を産めない事態が起こった。
- ・アユは琵琶湖漁業のなかでも一番大切な魚種なので、その資源を維持するため我々も知恵を絞りながら対策を講じる必要があると考えている。

○委員(学識経験者)

- ・高時川とか姉川だけの問題ではなく、琵琶湖全体、滋賀県全体の問題なので、そういった観点で取組をしていけるように問題意識を共有する必要があると思う。

○委員(地元関係者)

- ・我々としても川をうまく利活用し、訪問客をこの地域に呼び込むことが非常に大事である。
- ・アユとかいろんなものがどう提供できるか、一緒に考えていけたらと思う。
- ・毎年夏に自然体験塾をやっているが、そこで川の大切さとか水生生物の調査もやっているの、そういうところを子供たちにしっかり見せていけたら良い。

○委員(学識経験者)

- ・以前の高時川がどういう環境であったのかという情報を収集しないと、今の高時川がどういう状況にあるのかの判断が難しい。
- ・今までは濁水問題として、災害復旧や事業者の是正措置といったところに注力していたが、今後は高時川や姉川、琵琶湖全体を良くしていくというような局面に入っている。

○委員(地元関係者)

- ・河川工事の際、完了後に川の土砂を持ち出さないことが原則になっているので、土砂の均し方について要望したい。
- ・また、付帯工事として、河川環境に関わる工事を組み入れて、周りの漁場も良くしてほしい。

○委員(学識経験者)

- ・長良川の例では、河川工事で使う土砂は全て川の中のものを使用し、他所からの土砂は一切入れないよう漁協が行政に要請している。
- ・また、撤去時には川の石を持ち出さず、小石を適当に散らばるようにさせている。
- ・滋賀県でも、多自然型の川づくりとして高時川でも少し取り組んでいただけたらと思う。

9 議題4 その他

(事務局)

- ・本日の検討会議の内容を地元の方にお知らせする報告会を時期は未定だが新年度に開催したい。
- ・自記濁度計による濁度調査を継続しており、次年度も継続する予定。
- ・検討会議についても、時期は未定だが今回のような形で開催したい。

10 座長まとめ

(座長)

- ・災害復旧や事業者の是正工事などですでに県のたくさんの部署が関わっているが、役割が変わる時期にきている。
- ・いろんな課題について、継続的に進めることも含めて今後の取組体制を県で議論いただきたい。

11 閉会

(事務局)

- ・いただいた意見については、行政関係者で構成する高時川濁水対策連絡調整会議で協議したい。
- ・本日の議事については、議事概要として後日公開する。